

論 文 審 査 の 要 旨

博士の専攻分野の名称	博 士 (学 術)	氏名	Ruben Bernard Polo-Sherk
学位授与の要件	学位規則第4条第①・2項該当		
論 文 題 目			
On the Cognition of the Expression of Thought in Language			
論文審査担当者			
主 査	准教授	町田 章	印
審査委員	教授	柴田美紀	印
審査委員	教授	坂田省吾	印
審査委員	教授	岩永 誠	印
審査委員	准教授	田中晋平	印
審査委員	准教授	Robert Taferner Horst	印
〔論文審査の要旨〕			
<p>本論文は、前言語的思考(original thought)を言語化する際に生じる認知操作の過程に関するモデルを提案するものである。構成としては、まず第1章で論文の全体構成を述べ、第2章の研究背景では、言語と思考の関係、意味の心内表象、概念の語彙化(conceptual lexicalization)、言語設計(the architecture of language)に関する先行研究を概観したうえで、本研究の採るべき理論的立場を明確にしている。次いで第3章では、意味構築(meaning construction)に関する問題の検討を行い、言語表現の意味は、構成的に構築されるものではなく話者のメンタル・モデル(mental model)に沿うように動的に構築されていくと主張している。第4章では、様々な言語のデータを示しながら、前言語的思考を言語化するための前段階である言語依存的思考(linguistic thought)を産出する区画化(compartmentalization)という認知操作に関する提案を行っている。この区画化により、前言語的思考は目標言語で表現される準備段階に当たる言語依存的思考に近似的に変換される。以上の考察を受け、第5章では、本研究の核となるアブダクション(abduction)という認知操作に関する提案を行っている。アブダクションとは、メンタル・モデルなどの背後理論(background theory)を用いて「結果」からその「原因」を推論する創造的な認知操作として規定され、このアブダクションを用いることによって言語依存的思考(結果)が産出されることになる。アブダクションはワンステップで行われる場合と順次的(algorithmic)に行われる場合があり、どちらの場合にも、メンタル・モデル認知、洞察力(insight)、探索機構(search mechanism)、自動化(automatization)などが無意識処理として関わっている。最後に、第6章では、本研究のまとめと今後の展望が述べられており、特に、本研究で提案したモデルと言語能力(language faculty)との関係や音楽における作曲作業と本研究との関連性についての見通しが述べられている。</p> <p>従来の言語学では、前言語的思考がどのように言語として表現されるかという問題に関心を置く場合と言語によって話者の前言語的思考がどのような影響を受けるかという問題に関心を置く場合に大別できるが、本研究のように前言語的思考が目標言語に合わせる形で言語依存</p>			

的思考に変換されるという可能性が正面から検討された研究は見当たらない。その意味で、本論文は、言語依存的思考が生成される可能性を追求し、その過程に関するモデルを提案した先駆的研究として今後の言語研究にとって重要な示唆を与えるものであると言える。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（学術）の学位を授与される十分な資格があるものと認められる。

備考 要旨は、1,500字以内とする。